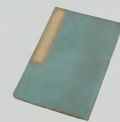


日本の未来へヒト＊ヒカリ

目指すは 日本一の 文教の里。

全国に誇る
「文教の里
多久市」



「多久の雀は論語をさえずる」「百姓に道を問えば鋤を置いて道を説く」と言われたほど江戸時代から文教を重んじてきた多久市。孔子の教えと、多久茂文たくしげふみが開拓した学びの文化は300年を経た今も息づいており、学校の授業でも「論語カルタ」や「論語の素読」などを取り入れるなど、文教は市民の生活の一部となっています。

多久市では更なる教育力の向上のため、平成25年度から小中一貫校の導入にともない「学力向上」「心の教育」「多久学」「交流活動」「ICT教育」「国際化」の6本の大きな柱を立てました。

充実した学びの環境づくりや礼儀・思いやりのこころを育む「怒じよ」の教育活動の実践を通じて、子どもたちの健やかな成長を育む、「文教の里 多久市」を目指しています。



とうげんしょうしゃ 東原厩舎とは

元禄12年(1699年)に多久茂文が建てた学校で、
鶴山書院ともいいました。

武士の子弟のみならず、
のちに百姓・町人の子どもでも

志あるものには門戸を開放するという
当時としては大変珍しい学舎でした。



多久茂文



現在の東原厩舎は、平成3年に宿泊型社会教育施設として、当時の面影を残しつつ現代風に再建され、学校のクラブ活動等の研修施設として利用されています。



東原厩舎は、元禄12年(1699年)に多久四代領主多久茂文が建てた学校で、明治2年(1869年)、我が国に新しい学制が施行されるまでの170年間、一貫して文武両道の学問の修得の場でした。また、身分を問わず学問を志す者にも入学を許可し、学問の地として、その名は遠く江戸にまで達しました。

のちに電気工学の先駆者となる志田林二郎をはじめ、明治刑法の草案者である鶴田斗南、肥前の石炭王と言われた高取伊好など、日本の近代化や郷土のために尽くした偉人を数多く輩出しました。

平成25年4月開校、平成の学問所 小中一貫校東原厩舎

佐賀県初
小中一貫教育の
市内全域一斉スタート。



スクールバス



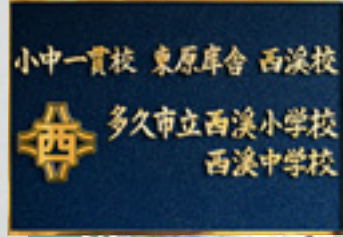
学校レポート
in
中央校
おがわふうか
小川 風香さん

昼休みに小学部を呼んでミニコンサートを行ったり、小学部の先生に立腰教育(姿勢に注目した教育法)を教わったりしています。私は吹奏楽部なので演奏を小学部に聴いてもらえることがうれしいです。手本になれるよう頑張りたいと思います。



学校レポート
in
東部校
ふじましおん
藤木 志苑さん

小中合同の体育大会やあいさつ運動、文化発表会などさまざまなことに取り組んでいます。理科では9年生(中学3年生)と一緒に授業をして、とても勉強になりました。分からないことを中学生や中学校の先生に聞けるところがいいと思います。



学校レポート
in
西溪校
とりいゆうと
鳥井 優斗さん

論語や論語カルタ、学び合い、釈菜の舞などに力を入れて取り組んでいます。同じ校舎にいますので、小中学生が気軽に話したり、遊んだり、一緒に協力して合唱や運動会を盛り上げたりと、交流が増えていると思います。